

14.6=

320

14.6=320
1200501223746

新井城趾、氣候並三潮汐
葉山所照、崎海岸、土用波
神奈川縣測候所編



始

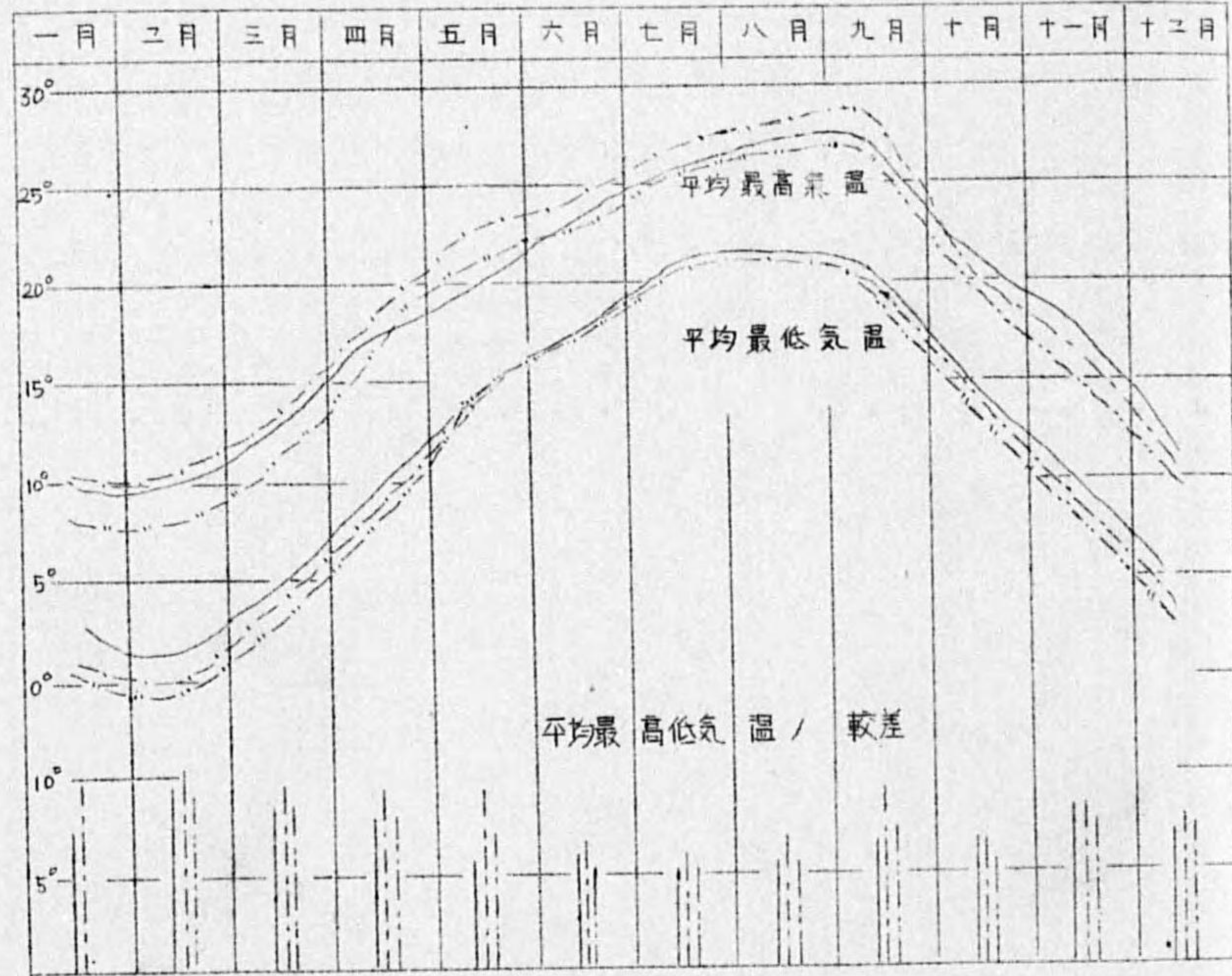


神奈川縣ノ氣候第二篇

新井城趾ノ氣候并ニ潮汐
葉山町照ヶ崎海岸ノ土用波

神奈川縣測候所

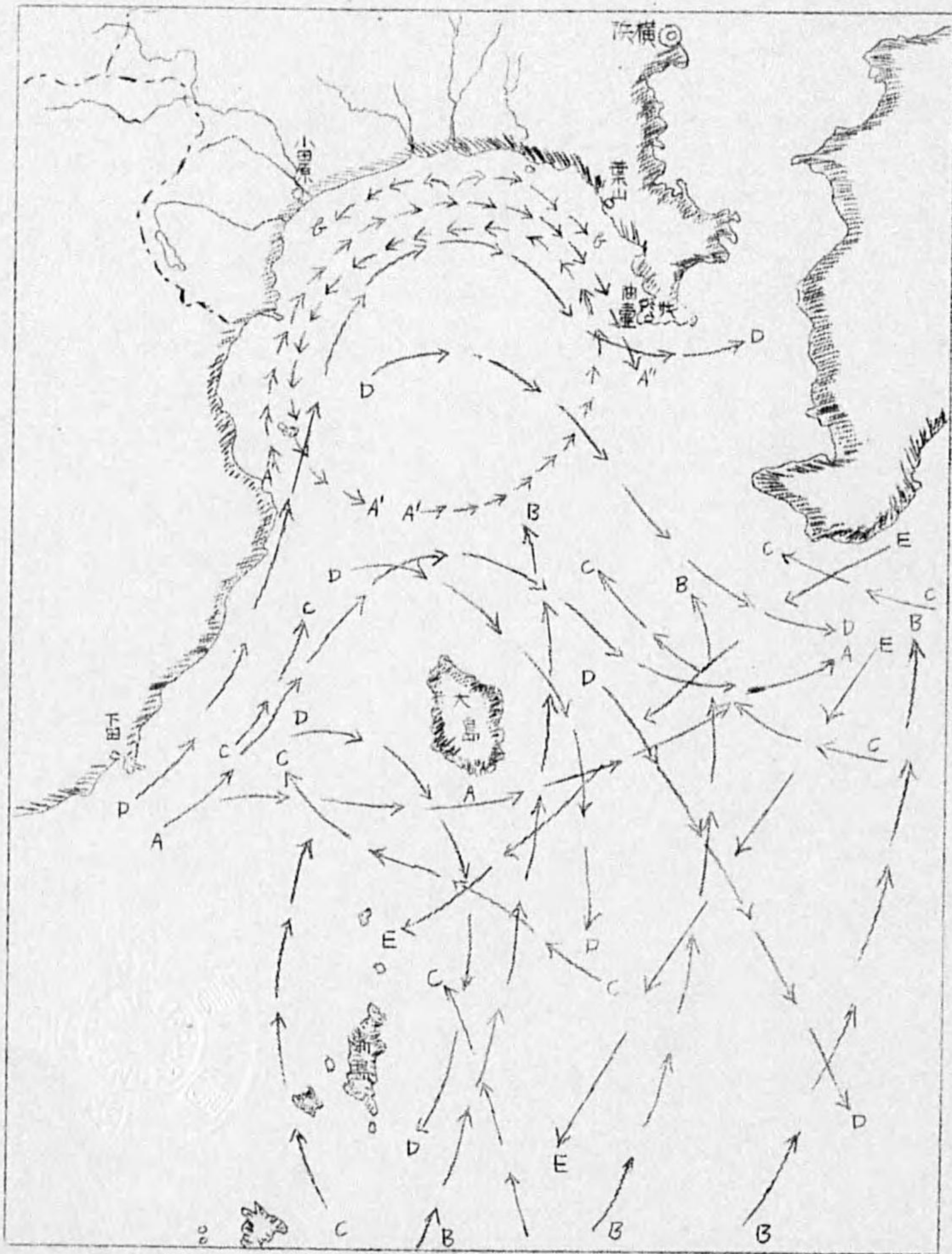
第一圖 氣溫比較圖



第二圖 氣溫溫度別及霜雪 / 季節一覽圖

月	昭和二年十二月	三年一月	二月	三月	四月	五月	六月
最高氣溫 十度以下	[Horizontal bars indicating temperature ranges]						
最低氣溫 零度以下	[Horizontal bars indicating temperature ranges]						
霜	[Horizontal bars indicating frost periods]						
雪	[Horizontal bars indicating snow periods]						
月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	凡例
最高氣溫 三十度以上	[Horizontal bars indicating temperature ranges]						凡例 抽葉山 橫 跌
最低氣溫 二十五度以上	[Horizontal bars indicating temperature ranges]						

第三圖 相模灣附近潮流圖



A. 真潮 B. 込真潮 C. 込逆潮 D. 出真潮
 E. 出逆潮 A'. Aの逆流 E'. 大狂の潮

146-320

神奈川縣 / 氣候 第二編

新井城趾附近 / 氣候并ニ潮汐

葉山町照ヶ崎海岸 / 土用波

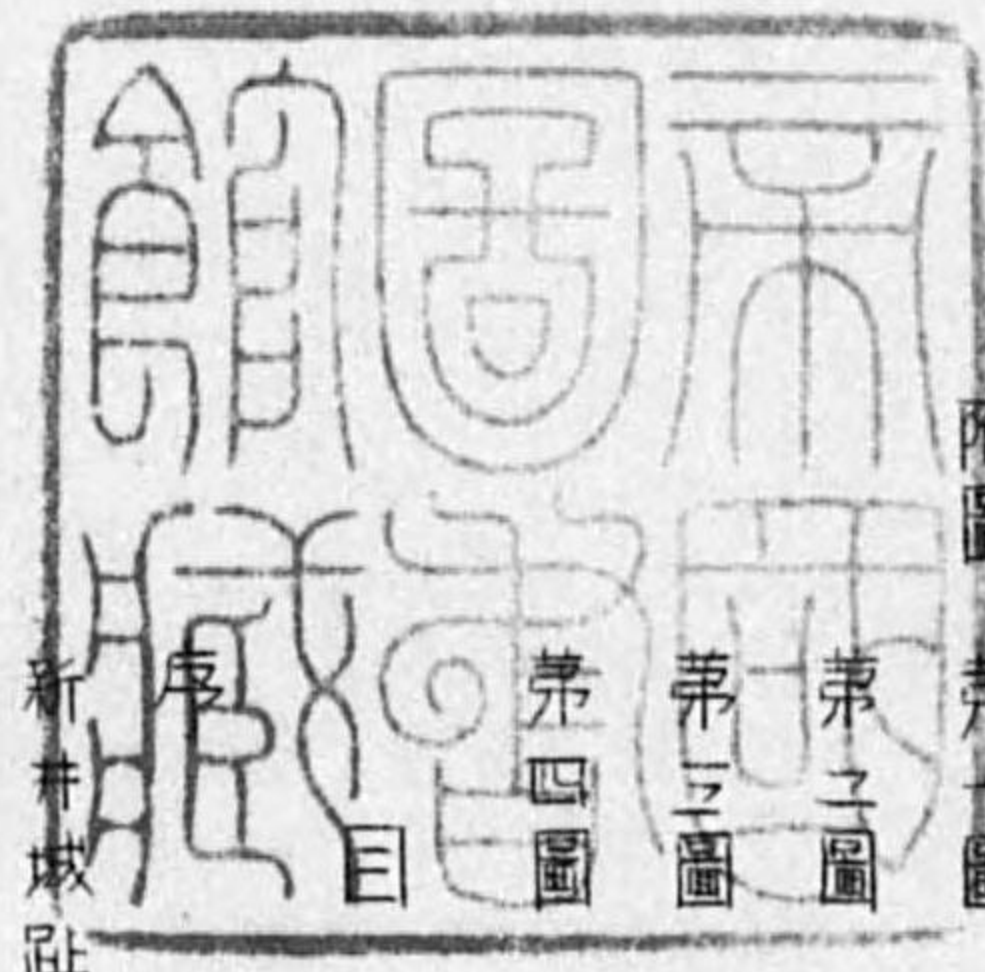
附圖 第一圖 氣温比較圖

第二圖 氣温温度別及霜雪ノ季節一覽圖

第三圖 相模湾附近潮流圖

第四圖 照ヶ崎海岸潮向零圖

次



新井城趾附近 / 氣候並ニ潮汐 一頁

第一編 新井城趾 / 氣温及霜雪 二頁

概説 二頁

第一章 最高氣温 二頁

(一) 最高氣温ノ平均 (二) 最高氣温ノ振幅 (三) 最高氣温三〇度以上ノ季節及



目次

第二章 最低氣温 五頁

(四) 最低氣温ノ平均 (五) 最低氣温ノ振幅 (六) 最低氣温氷点下ノ季節及日数

第三章 氣温ノ振幅 七頁

(七) 氣温ノ平均振幅

第四章 平均氣温 八頁

(八) 平均氣温

第五章 温度別季節及日数 九頁

(九) 最高氣温三〇度以上ノ季節及日数 (一〇) 最低氣温二五度以上ノ季節及日

数 (一一) 最高氣温一〇度以下ノ季節及日数 (一二) 最低氣温氷点下ノ季節及

日数

第六章 霜雪等ノ季節及日数 十二頁

(一三) 霜 (一四) 雪

第二篇 新井城趾附近ノ雨量及雨天日数 十五頁

(一五) 雨勢ノ概観

第三篇 三崎附近ノ最多風向及暴風季節 十七頁

(一六) 最多風向 (一七) 暴風季節 (一八) 暴風時数

第四篇 植物現象及氣候概括 二十三頁

(一九) 植物現象 (二〇) 結語

第五篇 油壺附近ノ地震 二十四頁

(二一) 油壺地震回数 (二二) 大震ニヨル被害状況

第六篇 小網代湾附近ノ潮汐 二十六頁

(二三) 相模湾附近ノ海流 (二四) 相模湾流 (二五) 変潮流

(二六) 小網代湾内ノ潮汐 (二七) 氣候ニ及ボス影響

葉山町照ヶ崎海岸ノ土用波 三十一頁

土用波発現期、土用波ノ高さ、津浪、潮向、風波、風信

海鳴ト天氣、波音ト天氣、大島ノ噴煙ト天氣

(完)

序

コノ二篇ハ昭和三年及四年中ノ起稿ニ係リ、上局ノ命ニヨリ一篇ハ御用邸豫定地トシテ撰マレタル旧新井城趾附近ノ氣候及沿岸ノ潮汐状況ニ就キ他ノ一篇ハ葉山ノ土用波ニ就キ調査セル旧稿ニテ、同地附近ニ氣象觀測所ヲ有スル今日ニテハ、當然改訂スベキモノナレドモ、而カモ孰レモ創立已未経年少ナク、氣象調査資料ニ供スルニハ、未タ充分ナラサルニヨリ、暫ラク旧稿ノ儘ヲ上梓シテ、同地附近ノ氣候又ハ海象ノ大觀ニ資スルコト、セリ。乞フ諒セヨ。

新井城趾附近ノ氣候并ニ潮汐

神奈川県測候所長 高木 健



三崎町新井城趾附近ニハ東京帝國大學理學部油壺臨海実験所ニ於テ、氣象觀測ヲナセドモ、其記録ハ経年少クシテ、氣候調査資料トシテハ未タ充分ナラス。又大震以前ニハ三崎町及小網代ニ氣象觀測所アリテ、可成リノ成績ヲ有スレドモ、最近数年ノ觀測値ハ嚴密ナル調査研究ヲ要シ、今直チニ使用シ得ザル事情アリ。又附近ニ於テ日常ノ天候若クハ動植物ノ動靜変化等ヲ注視シテ記録セル篤志家ヲ索メ得サリシニヨリ、不止得油壺ノ氣象觀測成績ト城ヶ島燈台、縣立水産試験場三崎分場、葉山氣候觀測所及本所ノ昭和三年中ノ觀測記録トヲ参照シ、同地ノ氣候ノ大勢ヲ考察シ、内最多風向及最強風向等ハ前記記録ト小職ノ現地植物觀察ニヨリ考察シ、又水路部刊行日本水路誌、全潮汐表ト三崎分場村頼枝手、初聲村小網代ノ杉田順一、小管喜代松両氏ノ談ニヨリ、小網代湾附近ノ潮汐ノ大勢ヲ考察セリ。

第一篇 新井城趾附近ノ氣温及霜雪

概説

小網代湾ト油壺湾ニ介在スル新井城趾一帶ノ台地ハ大体トシテ、両湾ノ沿岸(油壺観測所ヲモ含ム)即チ台脚地ヨリ冬春兩季温暖ナル事實ハ、植物成長程度及如斯地形ニハ冬春秋三季ノ夜間ニ屢々~~北~~風吹起シ為メニ台脚地ノ氣温ハ却テ台上ヨリ低冷ナルコトアル現象ニヨリ推定セラル。以下此附近一帶ノ氣温状態ヲ考察スルノ資料トシテ葉山、横浜兩地ト油壺ノ昭和二年十二月ヨリ昭和三年十二月ニ至ル約一ケ年ノ観測成績ニ就キ対照説述スベシ。

第一章 最高氣温

(一) 最高氣温ノ平均 油壺ノ最高氣温ノ平均ハ全年ヲ通ジ横浜ヨリモ高ク、其差ハ晩秋ヨリ初春ニ亘リ大ニシテ、二度余ニ達スレドモ。盛夏八九月ハ僅力ニ〇.五度内外ニ過ヤズ。葉山ニ比シ晩秋ヨリ初春ニ亘リ〇.一度乃至一度余高クシテ。四月ヨリ九月マデハ一度余低シ。今各月平均値ノ高低兩極差即チ振幅ヲ

比較スレバ左表最下段ニ記セル如ク、油壺ハ一六度九、葉山ハ一九度三、横浜ハ一九度一ニシテ、油壺ハ変化最モ少ナシ

第一表 最高氣温ノ平均

地名	最高氣温ノ平均																		
	一年 全年	一月	二月	冬 冬	三月	四月	五月	春 春	六月	七月	八月	夏 夏	九月	十月	十一月	秋 秋	十二月	年 年	振幅
油壺	二二.七	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一三.〇	一三.七	一四.〇	一六.八	二二.四	二六.〇	二七.一	二五.六	二二.五	二一.〇	一八.三	二二.三	二二.七	一八.九	二六.九
葉山	二二.九	一〇.一	一〇.二	一〇.二	一二.九	一三.一	一三.八	二二.八	二四.三	二七.一	二七.六	二六.六	二二.四	二〇.五	一七.〇	二二.三	二〇.八	一九.三	二九.三
横浜	一〇.六	八.三	八.二	九.〇	一〇.九	一三.四	一三.一	二一.一	二二.六	二五.六	二六.四	二四.九	二二.二	一九.四	一五.六	二〇.七	一九.八	一七.六	一九.一

(二) 最高氣温ノ振幅

然レドモ各月最高極ニ就キテ看ルトキハ、昭和三年十月ヲ除ク外殆んど各月共油壺ハ横浜、葉山ニ比シ低度ヲ保ツニ反シ。最高氣温ノ月中低極ハ各月共兩地ニ比シ油壺ハ高度ヲ示シ。從フテ各月最高極温ノ振幅ハ、油壺ハ一三度六ニ過ヤカレドモ、葉山ハ一六度三、横浜ハ一五度三ヲ示シ。各月最高氣温低極ノ振幅ハ、油壺ハ一七度三、葉山ハ一八度二、横浜ハ一七度八ニ達セリ。即チ左表ノ如シ。

第二表 最高氣温ノ高低極

地名	最高氣温ノ高低極																		
	一年 全年	一月	二月	冬 冬	三月	四月	五月	春 春	六月	七月	八月	夏 夏	九月	十月	十一月	秋 秋	十二月	年 年	振幅
油壺	二二.七	一〇.六	一〇.六	一〇.六	一三.〇	一三.七	一四.〇	一六.八	二二.四	二六.〇	二七.一	二五.六	二二.五	二一.〇	一八.三	二二.三	二二.七	一八.九	二六.九
葉山	二二.九	一〇.一	一〇.二	一〇.二	一二.九	一三.一	一三.八	二二.八	二四.三	二七.一	二七.六	二六.六	二二.四	二〇.五	一七.〇	二二.三	二〇.八	一九.三	二九.三
横浜	一〇.六	八.三	八.二	九.〇	一〇.九	一三.四	一三.一	二一.一	二二.六	二五.六	二六.四	二四.九	二二.二	一九.四	一五.六	二〇.七	一九.八	一七.六	一九.一

最高温度ノ高極

油壺	一八九	一八六	一八八	一八九	二〇三	二〇四	二五六	二五六	二九八	二九八	二九六	三〇四	二五五	二二八	三〇四	一八五	三〇四	二二六
葉山	二二二	一九六	二六六	二二二	二二〇	二五〇	二七九	二七九	二八六	三二〇	三二六	三二〇	三二九	二五七	三二九	二八八	三三九	二八三
横浜	二二二	二六九	二二二	二二二	二〇五	二四八	二六八	二六八	二六九	二九二	三〇三	三〇三	三〇五	二二二	三〇五	二六二	三〇五	二五三

最高温度ノ低極

油壺	六五	五三	六二	五三	五六	九二	四二	五五	五六	二九六	二二七	二二六	一九六	二〇〇	一五七	二二七	一三七	八三	五三	二七
葉山	六六	四五	三七	三七	三五	二〇	五〇	四〇	三五	二〇	二二	二二	二二	二〇	一六二	六八	六八	七五	三五	一八二
横浜	四〇	三八	三九	三八	四六	九五	四六	四六	四六	二八九	一九四	二二〇	一八九	二〇二	二五八	八七	八七	五二	三八	一七八

(三) 最高気温三〇度以上ノ季節及日数 最高気温ノ三〇度以上ニ昇リタル日数ハ八月中ニ葉山ハ一日、横浜ハ一日ヲ等シ。九月中ニハ葉山ハ一日、横浜ハ四日ヲ等セルモ、油壺ハ僅カニ九月ニ於テノ三三日ヲ等セシニ過ぎス。

要之上述ノ如ク油壺ノ日中ノ最高気温ハ、横浜ヨリモ高温ナルヲ常トスレドモ、特別ノ場合ニハ却テ低キコトアリ。葉山ニ比シテハ、晩秋ヨリ初春ニ亘リ温暖ナレドモ、晩春ヨリ初秋ニ亘ル季節間ハ着シク冷涼ナリ。即チ年ヲ通シ氣候

温和ニテ避暑ニ好適ノ地ナリ。

第二章 最低気温

(四) 最低気温ノ平均 油壺ノ最低気温ノ平均ハ全年ヲ通シ横浜、葉山ヨリモ高度ヲ示シ、其差ハ四月乃至十月ハ少ナレドモ、十一月以降三月マデハ一度以上ニ及ビ、特ニ冬季ノ一月ハ横浜ヨリモ三度余高シ。次ニ各月平均値ノ高低兩極差即チ振幅ハ左表最下段ニ記セル如ク、油壺ハ二〇度五、葉山ハ二一度四、横浜ハ二二度〇ニシテ、油壺ハ変化最モ小ナリ。

第三表 最低気温ノ平均 (表中(一)符ヲ冠シタルハ氷点下ノ度数ナリ)

地名	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	春	六月	七月	八月	夏	九月	十月	十一月	秋	十二月	年	振幅	
油壺	四六	三三	一一	二九	四五	九一	二四	二九	三三	三六	二〇	二四	三三	一〇	五五	四七	二二	八三	〇五
葉山	三一	〇九	(一)〇	二二	三五	八六	二四	二七	二五	二〇	二二	二八	三四	一八	三三	三三	一一	二二	一四
横浜	一九	〇一	(一)〇	九	二七	八三	二四	二二	二〇	二二	二九	二二	二八	八三	二四	二四	二〇	二七	二〇

(五) 最低気温ノ振幅 各月最低極ニ就キテ看ルトキハ、油壺ハ秋冬春三季共葉山及横浜ヨリ高温ニテ、特ニ冬季ハ三度余高温ナルコトアレドモ、夏

季ハ稍、冷涼ナリ。從フテ各月最低極ノ振幅ハ油壺ハ二〇度四、葉山ハ二一度五、横浜ハ二二度〇ヲ等シ、油壺ノ振幅最モ小ナリ、次ニ最低気温ノ月中高極ハ、概シテ横浜ヨリモ年ヲ通ジテ高度ヲ示シ、葉山ニ比シテハ冬春兩季ハ高ク、夏秋兩季ハ低度ヲ示ス傾アレドモ、由未本學素ハ高低兩氣圧ノ位置及性質ニヨリ左右セラル、モノナルニヨリ、僅少一ケ年間ノ観測値ヲ以テ確言スルコトハ早計ナルベシ。

次ニ葉山及横浜ニテハ最低気温ノ年低極ハ多クハ一月下旬乃至二月上旬ニ觀ハルレドモ、三崎附近ハ三月上旬最モ寒、冷ナル如シ。コノ事實ハ本調査ノ爲メ同地方ニ出張シテ、城ヶ島燈台看守、三崎町役場員及三崎尋常高等小學校長等ヨリ親シク聴取セシ所ナルガ、左表ニ記ヌ如ク、昨年油壺ニ於テモ三月ニ最低極温ヲ観測セリ。コレ一見奇ナルガ如キモ、全ク逆潮(本項津波ノ條下ニ詳記セリ)ト称スル寒流ノ梢端ノ流未スル結果ナルベシ。

第四表 最低気温ノ高低極 (表中(一)符ヲ冠セルハ氷点下ノ度数ナリ)

地名	季	十二月	一月	二月	冬	三月	四月	五月	春	六月	七月	八月	夏	九月	十月	十一月	秋	十二月	年	振幅
油壺	(一)	15.0	15.0	15.0	15.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
葉山	(一)	14.9	15.5	15.1	15.9	16.6	17.1	17.4	17.7	18.0	18.4	18.9	19.0	19.3	19.5	19.9	20.9	21.4	21.7	21.7
横浜	(一)	14.0	14.8	14.8	15.6	16.2	16.8	17.4	17.7	18.2	18.7	19.2	19.7	20.1	20.5	20.8	21.8	22.8	23.1	23.1

最低温度ノ低極

最低温度ノ高極

地名	十二月	一月	二月	冬	三月	四月	五月	春	六月	七月	八月	夏	九月	十月	十一月	秋	十二月	年	振幅	
油壺	18.8	22.8	25.4	25.8	24.3	24.9	24.8	24.8	25.0	25.3	25.8	25.8	26.6	27.4	27.6	28.6	29.6	30.4	30.4	30.4
葉山	16.5	22.2	24.9	25.2	23.0	23.5	23.1	23.1	23.0	23.7	24.4	24.4	25.4	26.4	26.8	28.2	29.2	29.5	29.5	29.5
横浜	16.1	18.9	23.0	23.9	21.4	22.2	21.8	21.8	22.0	22.4	23.0	23.5	24.5	25.5	25.7	27.2	28.5	28.5	28.5	28.5

(六) 最低気温氷点下ノ季節及日数 最低気温ノ氷点下ニ降ル季節ハ各地共十二月ヨリ三月ニ亘ル四ケ月間ニシテ、昨年一月ハ油壺ハ四日、葉山ハ一日、横浜ハ十五日ヲ等シ。二月ハ油壺ハ三日、葉山ハ一日、横浜ハ六日ヲ。三月ハ油壺ハ二日、葉山ハ三日、横浜ハ六日ヲ。十二月ハ油壺ハ一日、葉山ハ三日、横浜ハ四日ヲ等シ。年總日数ハ油壺ハ九日、葉山ハ三日、横浜ハ四日ヲ等シ。其初終日等ハ附圖第二圖ノ如シ。

第三章 気温ノ振幅

(七) 気温ノ平均振幅 上表述バタル如ク油壺ハ葉山及横浜ヨリ、概シテ

エタル日数ハ、油壺ハ九月六日より同月十二日に至ル七日間ニ三日ヲ等シタルニ過ギザレドモ。葉山ハ八月十二日より九月二十五日に至ル四十五日間ニ、八月十一日、九月中ニ一八日計二十九日ヲ等シ。横浜ハ八月二十一日より九月十三日に至ル二十四日間ニ、八月中ニ一日、九月中ニ四日計五日ヲ等シテ。葉山最も多ク横浜之ニ重ギ、油壺最も少ナカリキ。

(六) 最低気温ニ五度以上ノ季節及日数 又同年中最低気温ノ二十五度ヲ起エタル日数ハ、油壺ハ八月二十二日より同月三十一日マテノ十日間ニ三日ヲ等シ、葉山ハ八月五日、横浜ハ八月三十一日ノ只一日ノミナリキ。即チ各地共最暑季ハ八月下旬ヨリ九月初旬ニテ、此期間ノ夜間及早朝ノ気温ハ油壺最も

高温ナリ。即チ左表ノ如シ。

第七表 夏季温度別季節及日数

地種	最高気温三十度以上					最低気温二十五度以上					
	七月	八月	九月	十月	計	七月	八月	九月	十月	計	
油壺	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
葉山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
横浜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	
	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	
	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	
	初日	終日	中間日数	七月	八月	九月	十月	計	初日	終日	中間日数
	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三
	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一
	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四

(二) 最高気温一〇度以下ノ季節及日数 次ニ昭和二年ヨリ三年ニ亘ル寒候及同三年末ヨリ四年ニ亘ル寒候ニ於ケル、最高気温ノ十度ニ達セザリシ日数

ハ、油壺ハ四七日、葉山ハ五四日、横浜ハ八五日ヲ等シ。其季節ハ横浜ニテハ昭和二年十一月二十一日ニ始マリテ、三年四月三日ニ終ハリ、其中間日数ハ一三五日ヲ等シ。新冬季ニ入りテハ三年十一月二十八日ニ始マリ。葉山ニテハ二年十二月七日ニ始マリ、三年三月三十一日ニ終ハリテ、其中間日数一六日ヲ等シ。新冬季ハ十一月二十八日ニ始マレリ。油壺ニテハ二年十二月七日ニ始マリ、三年四月一日ニ終ハリテ、其中間日数一七日ヲ等シ。新冬季ハ二年十二月十二日ニ始マレリ。即チ第八表ノ如シ。

(三) 最低気温氷点下ノ季節及日数 最低気温ノ氷点下ニ降リシハ、油壺ニテハ二年十二月二十五日より三年三月七日ニ至ル七十四日間ニ九日ヲ等シ。

葉山ハ二年十二月二十日ヨリ三年三月八日ニ至ル八〇日間ニ三四日ヲ等シテ、新冬季ニハ十二月六日ニ始マリ。横浜ニテハ二年十二月十九日より三年三月二十四日ニ至ル九十七日間ニ四六日ヲ等シテ、新冬季ニ入りテハ十二月二十日ニ始マレリ。即チ第八表ノ如シ。

第八表 温度別季節及日数

			一月	二月	三月	四月	十一月	十二月	計	初日	終日	中間日数	新冬初日
			最高気温十度以下										
油壺	葉山	横浜	一五	一三	七	一	一	一	四七	三月 二月七日	四月 一日	一一七	三月 二月二日
油壺	葉山	横浜	一六	一三	八	一	一	一六	五四	三月 二日	三月 二日	一一六	三月 二日
油壺	葉山	横浜	二五	二一	一七	二	二	二〇	八五	二月 二日	三月 二日	一三五	三月 二日
			最低気温〇度以下										
油壺	葉山	横浜	四	三	二	一	一	一	九	三月 二日	三月 二日	七四	三月 二日
油壺	葉山	横浜	二	一	一	一	一	一	三	三月 二日	三月 二日	八〇	三月 二日
油壺	葉山	横浜	一五	一〇	六	一	一	五	四六	二月 二日	三月 二日	九七	三月 二日

第六章 霜雪等ノ季節及日数

(三) 霜 ハ油壺ニテハ日々ノ記載ヲ欠クテ以テ、其日数ハ不明ナレドモ、二年十二月二十五日ニ初霜アリ、八十日ヲ経テ三月十六日ニ終ハリ。新冬ハ

三年十二月七日ニ初霜ヲ結ビ。葉山ニテハ昭和三年中一四日ヲ等シ。昭和二年十二月二十五日初霜アリテ、四十八日後ノ三年二月十日ニ終ハリ。新冬ハ三年十二月六日ニ初霜ヲ結ビ。横浜ニテハ三年中三六日ヲ等シ。二年十二月十一日初霜アリ、一〇五日ノ後三年三月二十四日ニ終ハリ。新冬ハ十二月六日ニ初霜アリタリ。豊之横浜ニテハ十二月初旬ヨリ三月下旬マデ、油壺葉山両地ハ十二月初旬ヨリ三月中旬マデヲ結霜期ト見做スラ適當トスルナラン。即チ第九表ノ如シ。

(四) 雪 ハ三浦半島南端ニテハ稀有ノ現象ニテ、例年二三日アルニ過ズ、

昭和四年一月一日日本概内ノ大部分ニ亘リ降雪アリタル際ニハ、三崎、城ヶ島附近ニテモ降雪セシモ極メテ短時間ナリシト云フ。油壺ニテハ記録ヲ欠キシニヨリ明瞭ナラズ、恐ラクハ一月ヨリ三月ニ亘リ、同ジク二三日ヲ等スルニ過ギサルベシ。

第九表 霜雪ノ季節及日数

			一月	二月	三月	四月	十一月	十二月	計	初日	終日	中間日数	新冬初日

モノニテ、各日ノ雨量ハ第十表ニ記ス如ク、前同様城ヶ島ニ最も多ク、北スル程減少シ、横浜最も少ナカリシニヨリ。大体ニ於テ此ノ趨勢ハ正シキモノナリト見做スモ大過ナカラシカ。次ニ雨天日数ハ各地共夏季ニ多ク、六月及八月ハ雨季ナレドモ、雨量トハ反対ニ北スル程日数増加スル傾キヲ呈ス。然レドモ油壺ノミ城ヶ島及葉山ヨリ著シク少ナキ異象ヲ示セリ。コハ尚ホ後日精査ヲ要スベキ事項ニ属ス。詳細ハ第十表ノ如シ。

第十表 雨量及雨天日数

地名	種	雨量 (耗)													
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計	平均雨量
城ヶ島	種	九三、〇	七九、五	三六、二	二四、四	二〇、四	二六、八	二五、五	九二、五	三六、〇	七八、〇	六九、五	三九、二	一八、八	一四、八
三崎	種	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
油壺	種	五五、〇	一〇、八	一三、八	七五、七	二四、七	二二、九	二五、八	二九、九	六二、三	三二、九	五六、四	一〇、五	三、八	一四、五
葉山	種	七四、九	九一、八	一五四、六	八七、八	二〇、九	三三、六	二二、八	三三、九	七九、九	二二、七	六七、四	四〇、六	一九、五	一三、四
横浜	種	八三、一	八一、八	一五七、八	一四二、三	一七〇、六	三三、八	三三、五	二五、四	六三、九	二二、九	三三、七	二八、二	一八、七	一一、五
地名	種	二八、〇	九二、五	一一一、〇	六九、〇	七四、〇	二九、〇	二四、二	四七、〇	二九、〇	九四、〇	二五、〇	一四、〇	二四、二	七月至五月
地名	種	二八、〇	九二、五	一一一、〇	六九、〇	七四、〇	二九、〇	二四、二	四七、〇	二九、〇	九四、〇	二五、〇	一四、〇	二四、二	七月至五月

地名	種	雨天日数												
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
城ヶ島	種	一一、〇	五	九	一〇	一〇	一八	一二	一六	一〇	一四	二〇	八	一三二
三崎	種	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
油壺	種	一八、一	三三、二	二〇、四	二六、三	四〇、三	九三、二	五五、一	二五、六	一一、二	七九、八	二九、五	五六	一三五、六
葉山	種	三一、五	三六、〇	六三、八	三四、四	七八、一	六三、〇	八五、五	二七、七	二二、八	八三、五	三〇、〇	一四、五	二七七
横浜	種	四四、一	三八、〇	四二、二	五六、九	七〇、二	一〇六、三	五三七	六二、二	六三、六	六五、三	三二、五	六六、八	一〇六、三
地名	種	一一、〇	五	九	一〇	一〇	一八	一二	一六	一〇	一四	二〇	八	一三二
地名	種	一一、〇	五	九	一〇	一〇	一八	一二	一六	一〇	一四	二〇	八	一三二

第三篇 三崎附近ノ最多風向及暴風季節

元来風向ヲ観測スルニハ、地物ノ影響ヲ避クルコトヲ要スルモ、多クノ場合ニハ土地及事業ノ性質上理想ニ沿フヲ得ザルハ不止得事ニ属ス。本項

ヲ考察スルニ際シ、油壺ノ現在地ハ風向観測上充分ナラズ。三崎分場ハ三年五月ヨリ観測ヲ開始シ。城ヶ島、劔ヶ崎両燈台ハ目測ナルニヨリ、何レモ本項ノ資料トシテハ甚ダ不充分ナレドモ。横浜ト同地方トノ風向及風力偏差ノ目安ヲ得ンガ爲メニ、暫ラク各所ノ観測値ヲ使用スルコトトセリ。尚ホ城ヶ島、劔ヶ崎、新井城趾ノ三ヶ所ハ殆ンド同海拔ヲ有シ、且ツ何レモ丘頂平坦ナルガ故ニ、絶対値ハ勿論相違アルベキモ、其変化ノ大勢ハ畧ホ等シト見做シ、以下考察スルコトトセリ。

(六) 最多風向 三浦半島南西部ノ各月最多風向ハ、十二月ヨリ三月ニ至ル冬季ハ、横浜附近ト異ナリ南西風ヲ主風位トシ。四月乃至六月ハ横浜ト等シク南々西風多位ヲ占ムル模様アリ。夏秋両季モ恐ラクハ横浜ト等シク偏北風多位ヲ占メ。五月、九月、十月ハ寒流(逆潮)ト高低気圧ノ消長ニヨリ、或ハ横浜ト相違スルコトアルベキモ、大体トシテハ両地共同傾向ヲ呈シ、只海陸微風ハ三浦半島ノ方顕著ナルベシ。左ニ劔ヶ崎(城ヶ島ハ記録ヲ欠ク) 三崎、横浜ノ昭和三年中ノ最多風向ヲ表記ス。

第十一表 最多風向

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
劔ヶ崎	南西	南西	南西	南西	北東	南西	北東	北東	北東	西	北東	南西	南西
三崎	北	北	北	南々西	偏南	偏南	北東	北東	北東	西	北東	北東	北東
横浜	北	北	北	南々西	南々西	南々西	南	北々東	南	北々西	北々西	北々西	北

尚ホ三崎町役場ヨリ得タル同地風向表(第十二表)ニヨレバ、十月ヨリ三月マデハ北風主位ヲ占メ。四月ヨリ九月マデハ南風卓越シ、大体本所観測ノ横浜ノ卓越風位ト一致セリ。然レドモコノ資料ハ出所及観測時刻明瞭ナラズ、恐ラクハ同所築港事務所等ニ於テ、一日一回(午前十時カ又ハ正午)観測セシモノナラント想像セラル、ニヨリ。新井城趾附近ノ日中ノ最多風位ハ、多少偏シ居ルモ、大体斯ノ如シト見做スモ大過ナカルベシ。

第十二表 三崎町附近大正十五年中ニ於ケル風向表

北	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
二〇	九	一三	七	九	一〇	一	五	四	一五	二五	一〇	一一六	

最多風向	計	北西	西	南西	南	南東	東	北東
北	三二	一	五	二	二	一	一	二
北南	二七	一	一	一	九	二	二	三
北	三一	一	五	四	八	一	一	二
南	三〇	一	一	五	一六	一	一	一
南	三一	一	一	三	一八	一	一	一
南	三〇	一	一	一	一六	二	一	一
南	三一	一	一	八	二〇	一	一	一
南	三一	一	三	三	一九	一	一	一
南	三〇	一	四	九	一	一	一	一
北	三一	一	四	五	五	一	一	一
北	二八	一	五	五	三	一	一	一
北	二七	一	八	五	二	一	一	一
北	三五八	二	三六	五一	一九	五	七	二

(七) 暴風季節

コノ附近ノ暴風季節ハ、横浜附近ト同様ニ十月ヨリ翌年四月頃迄ト見做シテ大過ナルベク。又風力ハ逐月増大シテ、其最モ強烈ナル季節ハ三月頃ナルベシ。第十三表ハ城ヶ島、劔ヶ崎兩燈台ノ目測成績ト、本所観測ノモノトヲ載セタリ。兩所ト横浜トノ値ノ著シク異ナルハ、本所ハ短時間ニテモ風速毎秒十米ヲ超エタル日數ヲ暴風日ト算スルニヨル。

第十三表 暴風日數

横浜	劔ヶ崎	城ヶ島	月
一	四	一	一月
一三	六	四	二月
一四	八	三	三月
一四	三	三	四月
九	三	一	五月
五	二	一	六月
四	二	一	七月
四	一	一	八月
一	一	一	九月
六	五	三	十月
一〇	六	一	十一月
一一	六	一	十二月
一〇一	四七	一七	年

(八) 暴風時數

第十四表ハ横浜ニ於ケル暴風時數ナリ。本表ニヨレバ九月最モ靜穩ニテ、十一月十二月ハ急増シ、三月ニ入り更ニ急増シテ、四月ニ急減ス。而シテ冬季ハ偏北ノ暴風多ク、夏季ハ偏南ノモノ卓越ス。小網代灣北岸崖上ノ松及新井城趾ノ松ガ、共ニ畧ホ北三五度西乃至北二〇度西ヨリ靡ビキ居レルハ、冬季ヨリ初春ノ候同方向ヨリノ風強キコト多キヲ語ルモノナルベシ。

第十四表 風向別暴風時數 (横浜)

北々東	北	月
一	一五	一月
一	二六	二月
八	四四	三月
一	一六	四月
四	六	五月
二	四	六月
九	七	七月
五	七	八月
一	一	九月
一	八	十月
一	七	十一月
一	一	十二月
二九	一四一	年

計	北々西	北西	西北西	西	西南西	南西	南々西	南	南々東	南東	東南東	東	東北東	北東
五〇	二	三	一	一	三	二	五	一	一	一	一	一	一	一
六八	二	二	二	一	二	三	一	一	一	一	一	一	一	一
一一四	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六六	二	一	一	一	五	六	八	二	一	一	一	一	一	一
三八	一	一	一	一	一	五	八	一	一	一	一	一	一	一
二四	八	一	一	一	一	四	六	一	一	一	一	一	一	一
四一	一	一	一	一	一	一	六	一	一	一	一	一	一	八
二一	一	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	一	一	一	一	一	三	三	一	一	一	一	一	一	一
一六	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四一	一	一	一	一	一	四	一	二	一	一	一	一	一	一
六四	四	一	一	二	一	九	一	一	一	一	一	一	一	一
五六〇	一七	一六	二	四	三六	五七	七一	六	一	一	一	一	五	二

第四篇 植物現象及氣候概括

(元) 植物現象 麥等ハ品種及播種時期其他ノ關係ニヨリ一様ナラザルニヨリ、彼此比較スルヲ得ザレドモ、昭和四年二月末ニハ新井城趾附近ノモノハ程ヶ谷附近ノモノヨリハ、大体二三寸程伸び居ル様見受ケラレタリ。

鼠柳ノ花ハ新井城趾ノモノハ、一月初メ頃既に咲キ了リタリトノコトナリシモ、其所在不明ナル為メ觀察スルヲ得カリシガ。初聲村下宮田ニテハ、二月二十三日曲尺一寸余ニ伸び居リシモ、同日本所附近ナル外ハ墓地北門側ノ日当リ良ク、且ツ北風速ギラレ居ル場所ノモノハ、尚ホ三分ニ及バス、三月一日漸ク曲尺八分ニ伸長セリ。小網代ニテハ梅ハ早キ所ニテハ十二月二十日頃。櫻(品種不明)ハ三月二十日頃。椿ハ年ノ暮(月日不明)ヨリ咲キ初ムル由ナリ。

(二) 結語 上未記シタル所ヲ綜合約言スレバ、新井城趾附近ハ着ルシク氣候温和ニシテ海洋性ヲ帯ビ、冬季及夜間ハ葉山、横浜等ノ如ク冷ナラズ、日中ノ温度ハ冬季ハ暖カニシテ夏季ハ涼シク。一年中ノ最高極温ハ三十度内外ニ

于九月頃ニ頭ハレ・最寒候ハ二月又ハ三月頃ナレドモ、氷桌下ニ降ル日ハ僅少ナリ。又最高依气温差即十一日中ノ气温ノ変化ハ葉山、横浜両地ニ比シ遙カニ小ナリ。只雨量ハ葉山、横浜等ヨリ多ク。暴風時ノ風力モ稍々強カルベシ。

第五篇 油壺附近ノ地震

(三) 油壺地震回数 大正十二年ノ大震ニヨリ、油壺附近モ着ルシク隆起シ、現在ニテモ震前ヨリ五、六尺隆マリ居リ。且つ大震ノ餘震終熄後モ外側地震帯ノ活動熄マズ、具分派ナル相模地震帯ニハ屢々強弱震発動シツ、アルニヨリ。同地附近ノ地震ノ大体ニテモ調査シ置クコトハ必要ナルベシ。幸ヒ臨海実験所ハ今村式ノ地震計ヲ以テ、昭和二年九月以降地震験測ヲ行ヒツ、アルニヨリ、同所観測ニ係ル昨年中ノ無感有感地震回数ト、本所ノ験測回数トヲ対照スレバ左表ノ如シ。

第十五表 横浜、油壺地震験測回数		震度	
無感	有感	地名	日
横 油	横 油	一月	二
三〇	二〇	二月	三
三〇	二二	三月	七
一九	一九	四月	七
一四	九	五月	一六
三六	三七	六月	一六
四四	二二	七月	八
二〇	一五	八月	九
二二	一六	九月	一一
三五	二六	十月	六
二九	二五	十一月	六
二七	一八	十二月	二
三六	二六	年	五
三三五	二五七		八七

計		有感	
横 油	横 油	横 油	横 油
三〇	二六	七	六
三〇	二六	四	三
二二	二六	四	七
一九	一六	五	七
四八	五三	一一	一六
四六	三一	二	八
二六	二四	六	九
二六	二八	四	一一
三八	三二	三	六
三六	三一	七	六
二七	二〇	〇	二
四〇	三一	四	五
三九三	三四四	五八	八七

本表ニヨルトキハ無感覺地震ハ、殆ンド全年ヲ通ジ横浜ノ方著ルシク多数ナリ。此事實ハ本牧鼻沖ニ頻発スル微動ハ本所ニ於テノミ験測シ得ラル、為メナルベキモ、亦地震計ノ種類及倍率ノ異ナルニモ帰因スルモノ多カルベシ。因ニ本所ハウキールト式地震計ヲ使用シ、上下動ハ百倍、水平動ハ八十倍ノ倍率トナシ居レリ。

有感覺地震ハ一月及二月ヲ除ク外各月共油壺ノ方遙カニ多シ。コレ相模湾弱線附近又ハ三崎附近ニモ、本牧鼻沖微動ヨリモ稍々強キ程度ノ小地震頻発スル為メナランカト想像セラル。尤モコノ單ナル事實ヲ以テ、同地附近ヲ地震頻発ノ地域ナリト思惟シ鬼懼スルコトハ、當ヲ得サルコトニシテ、或ハ却テ同地附近ノ地塊ガ常態ニ復シツ、アルヲ示スモノナルマモ測ラレズ。故ニ敢テ油壺附近ノ地盤ガ危険性アルモノト想像スルヲ得サルベシ。

(三) 大震ニヨル被害状況 大正十二年ノ大震ニ際シ、同地方ノ受ケタル被害程度ヲ比較スルニ。小網代ノ聚落地(台脚ノ海浜)ノ家屋ハ全潰十二三軒ニ及ビシモ。台地上(新井城趾)ノ家屋ハ四軒位ニ過ギザリシト云フ。又海濱ハ到處小亀裂生ゼシモ、台地上ニテハ巾一尺位ニ割レシ處少マアリ、又四五寸位ノ段透ヒトナリシ所モアリシ由ナルガ、其位置ハ現在不明ナリ。
 (小網代杉田順一氏談)

尚ホ台地上ノ農家ニ就キ聴取セシ所ニヨレバ、畠地ニテノ農動ノ度合ハ、台脚地附近ヨリモ遙カニ弱カリシ如シ。

小網代湾北岸ノ西ノ突角ハ二個所海ニ崩落シ居リタリ(西ハ)。コレ大震時ニ起コリタルモノナリト云フ。

第六篇 小網代湾附近ノ潮汐

(三) 相模湾附近ノ海流 小網代湾附近ノ潮汐ヲ速ブルニ先ケ、相模湾附近ニ流来スル黒潮及親潮ノ先端ノ消長ヲ知ルヲ要スルニヨリ、其概畧ヲ叙セン。相模湾外ニ流来スル暖流(黒潮)ト、寒流(親潮)トハ、共ニ氣候ノ異変ニ

伴ヒ、其流向及流速ヲ俄然変更スルコトアリ。夫レ等ノ現象ニヨリ、房総半島南方海上ヨリ相模灘ニ至ル海面ノ潮流ヲ左記五種ニ大別ス。

附圖中ノ符号	名称	意義	記事
A	眞潮	沿岸ニ平行シテ流ル、モノ	黒潮ノ常態
B	込ミ眞潮	沿岸ニ接近シ未ル黒潮	変調流ニシテ遠ク洋心マテ流ル、
C	込ミ逆潮	沿岸ニ接近シ未ル冷流	コトアリ、距岸ニ〇哩以上ノ沖合ハ
D	出シ眞潮	沿岸ヨリ遠サカラントス黒潮	眞潮アルカ、又ハ全ク海流ヲ見ザルコ
E	出シ逆潮	沿岸ヨリ遠サカラントス冷流	トアリ。(出所 日本水路誌)

コレ等ノ潮流ハ大体附圖第三圖ノ如キ流向ヲ採ルモ、其流速ハ千満ノ程度ニ伴ヒ多少ノ消長アルバク、又其度合ハ沖合ヨリモ陸地近クニ大ナルバク想像セラル。

(三) 相模湾流 相模湾内ノ海水ハ、大島ノ北方ヲ掠メテ曲流スル眞潮(A)ノ為メニ、三浦半島西沖ヲ北上シ、湘南沖合ヲ西シテ、更ラニ伊豆沖ニ向ヒ南

下スル湾流(A')ヲ成ス。而シテコノ潮水ハ、沿岸水ト沖水(黒潮)トノ混合セシモノニテ、水色ハ、沿岸水ヨリモ、清澄ナレドモ、沖水ヨリモ混濁シ居レリ。コノ湾流ノ外縁即チ陸地ニ接近シテ、二派ノ潮流一沿岸流一アリ。一ツハ伊豆東岸ヨリ湘南沿岸ヲ傳ヒ、三浦半島ノ西岸ニ沿ヒ南流スル「かしま」(A')小網代湾附近ノ渚夫ハ北潮ト稱ス。一ハ前者ヲ逆ニ、即チ相模湾流ト同方向ヲ採リ、三崎方面ヨリ北上スル「さきしま」(小網代湾附近ノ渚夫ハ西潮ト稱ス)トアリ(同中畧)而シテ「さきしま」ハ「かしま」汝ヨリ水色混濁シ居レリ。コレ東京湾ノ水ヲ混ジ居ルガ為メナルベシ。コノ故ニ水色ヲ望見シタルノミニテ、容易ニ流向ヲ判別シ得。

(三五) 変調流

コノ二潮流ハ平常一日一回宛交流スレドモ、暴風雨襲来ノ前後ニハ、数日間ニ亘リ、一方ノ潮流ノミ連日流続シ、且ツ其ノ流速ハ非常ニ強大トナルヲ常トス。コノ変調流ヲ俗ニ「狂ヒ汐」ト稱シ、湘南地方ノ大謀網が流失シテ、大損害ヲ蒙ル現象ハ、如斯場合ニ多ク発現ス。コノ「狂ヒ汐」ノ内、東去スルモノハ「出シ真潮」(C)ノ場合ニ、西流スルモノハ「込シ真潮」(B)又ハ「出シ逆潮」(E)ノ場合ニ誘起スルモノナルベシ。

真潮(A)が着シク大島ノ北方ニ湧出シテ、而カモ「出シ真潮」(C)ヨリ稍々北東ニ流向ヲ採ルトキ、又ハ「込シ逆潮」(D)ノ場合ニハ、コレ等ノ潮水ガ、相模川河口ノ南方約四理半沖合ノ、百濟線(一尋ハ六尺)ニヨリ劃サレ、俗稱「瀬ノ海」ニ衝突シテ、相模川河口ヨリ西ト東トニ向フ所ノ、流速非常ニ大ナルニ潮流ヲ生ズルナラン。コレ大謀網業者ノ常ニ恐レテ、警戒ヲ怠ラサルトコロノ「大狂ヒ潮」(6)ナルベシ。又コレ等ニ変調流ノ場合ニハ沿岸ノ突角ニ衝突シテ、夫々其湾内ノ潮流ヲ逆流セシムベキニヨリ、到处ニ小旋流一而カモ流速大ナルヲ生ズベキコトハ当然ノコトニ属ス。

(三六) 小網代湾内ノ潮汐

小網代湾ニテハ上ゲ汐ノ場合ニハ初聲村沿岸ヲ潮水通レドモ、北潮ノ場合ト西潮ノ場合トニハ、全然之ニ反スト云フ。小網代湾附近ノ漁夫ノ最モ懼ルル風ハ「ベツト」風(真西ヨリ少シク南ニ偏ス)ニテ、コノ風ハ湾口ニ真ト面ニ吹キ付ケテ、風浪ヲ立ツル為メナリト。然レドモコノ風浪ノ湧起スル海區ハ、同湾中央部ニアル渡船場附近マデニテ、夫レヨリ東部即チ小網代部落附近ノ海面ハ左シタルコトナク、湾奥ノ入江ニテハ極メテ安全ニテ、纜スルノミニテ幸足り、錠錨ヲ曳セザル程ナリト云フ。而

シテコノ風ハ三崎ノ観測ニヨレバ四季ヲ通ジテ吹ケドモ、九月ヨリ三月頃マデハ辱マ吹起スル模様アリ。

初聲尋常高等小学校長ノ談ニヨレバ、小網代湾ハ大震後水雷艇ノ避難港トナリ居レドモ、防波堤ヲ築造スレバ、優ニ千噸位ノ船舶ハ入港シ得ルナラント想ハル。往昔ハ二百石積位ノ船ノ避難港トナリ居リシト云フ。

(三) 氣候ニ及ボス影響

油壺、小網代、三崎附近ノ三月ノ最低氣温ガ、昭和三年ノ如ク二月ヨリモ低キコトアルハ、恐ラクハ「込ミ差潮」(D)ノ流未スル結果ナルバク推想セラルルニヨリ。親潮ノ流勢強ク、且ツ其末期遅ルル如キ変動ノ年ニハ、三月中旬以後ニ於テモ同地附近ハ異常ノ寒冷ニ遭遇スルコトアルバク推像セラル。

(完)

葉山町照ヶ崎海岸ノ土用波

神奈川縣測候所長 高木 健

土用波発現期 毎年夏季土用中ニハ、同海岸ニモ土用波襲来スレドモ、其初期

ハ安房海岸等ヨリ稍々遅レテ、普通土用半過ギニ襲来ス。従前ノ例ニヨレバ多クハ 天皇陛下御還幸後ニ起コル様ナレドモ、稀レニハ

御駐輦中ニモ立チシコトアリシト云フ。

土用波ノ高サ 土用波ハ平穩ノ場合ニハ、高サ三尺位ナレドモ、高キ時ニハ四一五尺位ニ達スルコトアリ(胸向五尺一ニ寸ノ、通称一人乗り船ハ出入困難ヲ感ズル程度ナリ)。コノ高浪ノ襲来ハ、南東方ニ積雲湧騰スル状態ニヨリ、予察スルヲ得ルト云フ。

津浪 津浪ノ激大ナリシハ、明治〇年(年代ハ不明ナレドモ明治三十五年八月七八日又ハ明治四十四年七月二十六日ノ内ナランモ、恐ラクハ明治三十五年ノモノナランカ)、及大正六年九月三十日ノ兩回ニシテ、二回共 御用邸堀ヲ越エテ、庭内ニ潮水浸入セシト云フ。據リテ浪高ヲ推測スルニ一丈内外ニ

産セシ如シ。而シテ現在ハ大震後海底隆起セシ爲メ、御崎下部ハ海面上ニ一丈ニ一三尺ナル様見受ケラル、ニヨリ、如上非常ニハ或ハ復タ潮水ノ御庭内ニ浸入スルナキヲ保セラレズ。

潮向 日常ハ潮向不定ニテ、満干時共其向明カナラズトノコトナレドモ、梅ズルニ、同地遙カノ沖合ヲ流ル、本潮流ノ爲メニ、干潮時ニハ磯近クニテハ北向キニ流レ。梅^サシ潮即チ満潮時ニハ南向キニ流ル、ナランカ。而シテ暴風時ニハ(多クハ南寄りノ風吹キ募ル時ナラン)、附圖第四圖中ノA矢ノ如ク南向キノ潮急流シ。長者ヶ崎鼻ヨリ入ル潮水ハ、B矢ノ如ク磯傳ヒニ芝崎ニ向ヒ弯流シ、中根ニ至リ淀ムヲ常トス。尤モ非常時ニハ「かさとり」磯ヲ起エテ流去スト云フ。

御水泳場ハ長者ヶ崎北寄りノ場所、小磯ノ陰ニテ、平時ニハ極メテ波靜カナル場所ナリ。從フテ荒天時ニモ附近ノ磯ニ比シ波ハ小ナレドモ、昭和二年波高カリシ時ニハ、御警戒船ハ磯波ヲ乗り切ルニ非常ニ困難セシト云フ。

風波 西風ハ如何程強クトモ、單ニ風波ヲ立ツルノミニテ、高浪起コリ御用邸岸ヲ打ツ様ノコトナシ。然レドモ北風吹ク時ハ、風力ノ大小ニ拘ハラズ高浪起コル。コレ沖合ニテハ南寄りノ風強吹スル故ナリト。(コレ颱風ノ


前駆タルウネリナリ。

風信 北西風ハ朝如何程強ク吹キ募ルトモ、晝頃ニハ風グヲ常トシ。北々西風ハ生命長ク、二三日吹キ続クコトアリ。(冬季ノ信風ヲ云フナリ。)

海鳴ト天氣 ^{サガ}三ヶ岡山(御用邸ヨリ北東ニ当ル)、名島(同上北西)方向ニ穩カニ鳴ル場合ニハ風ギナレドモ、強鳴スレバ北風強マル。

長者ヶ崎(同上南西)方面ニ海鳴スレバ西風強マル。

波音ト天氣 磯波ノ音サラ／＼ト聞ユル時ハ西風吹キ出シ。ゴトン／＼ト濁リテ聞ユル時ハ雨トナル。又海岸ニ出デテ、足ニベタ／＼ト砂着ク時ハ必ス雨天トナル。(湿度増加スル故ナラン。)

大島ノ噴煙ト天氣 大島三原山ノ噴煙花活(多分 ノ如キ形ナラン)ニ襲ヒク時ハ雨トナリ。細ク出デテ吹キ切レテ飛ブ場合ニハ風強マリ、南ニ襲ヒク場合ニハ船テ南風吹キ出ツ。

(完)

昭和七年四月十日印刷
昭和七年四月十五日發行

橫濱市中區山手町六五
印刷所 田中騰写印刷所

146

320

終